

# 「藤沢周平を愉（たの）しむ」

～季節と自然へのまなざし～

藤沢周平をじっくりと愉しみたい。英雄豪傑を嫌い、戦争を嫌った藤沢周平の作品世界には、市井に暮らすわたしたち庶民の、かけがえのない日々がえがかれています。そんな作品の冒頭にかならずあらわれるのは、夏のきらめきに蝉しぐれが降りそそぎ、夕暮れの大川は赤く染まり、暁のひかりが町を眠りから覚ますといった、季節と自然の情景描写です。近代以後の大規模な自然破壊のない時代が舞台の時代小説とはいえ、他の作家では自然描写はきわめて稀です。藤沢周平作品にあふれる季節と自然の卓越した描写は、時代小説のみならず現代文学の富なものです。『蝉しぐれ』、『溟い海』、『暁のひかり』などから、藤沢周平のえがいた季節と自然を物語の思いがけぬ展開とともにじっくり味わい、愉しみましょう。

日時： 2019年5月10日（金） 14時～16時

（受付：13時30分より）

場所： 所沢まちづくりセンター中央公民館 ホール

所沢市元町27番5号 （電話番号 2926-9355）

講師： 高橋 敏夫先生



文芸評論家、早稲田大学文学部教授。学生時代から類まれな文芸評論で注目され、その後も社会事象や映画、マンガ、音楽、演劇など多様なジャンルを横断し、鋭い現代評論を展開する。カルチャーセンター、公民館などでの講演も年間50回近い。

著書多数。時代小説関係では、『藤沢周平 負を生きる物語』、『藤沢周平と山本周五郎—時代小説大論議（佐高信との対談）』等があり、2018年1月には『松本清張「隠蔽と暴露」の作家』（集英社新書）、2019年3月には『抗う 時代小説と今ここにある「戦争」』（駒草出版）を出している。

参加費： 無 料 事前の参加申込みは不要、直接会場にお越しください。

主催： 所沢まちづくりセンター中央公民館

この講演会には手話通訳がついています

協力： サークル「漆の実」（文学愛好者による中央公民館登録団体）

藤沢周平（1927年12月～1997年1月）

山形県鶴岡市出身、山形師範学校卒業

1973年『暗殺の年輪』で第69回直木賞を受賞

1986年『白き瓶』で吉川英治文学賞を受賞

主な作品：『用心棒日月抄』『海鳴り』『風の果て』『蝉しぐれ』

『三屋清左衛門残日録』『たそがれ清兵衛』など多数

山形県鶴岡市に藤沢周平記念館がある

